

別紙様式 3

4 大学連携研究（公募型）支援費に係る研究成果（ホームページ用）

事 項	（所 属）	（職 名）	（氏 名）
共同研究 代表者	京都工芸繊維大学 応用生物学系	准教授	北島 佐紀人
研究組織の体制	京都府立大学 京都産業技術研究所 NPO法人丹波漆	教授 主席研究員 代表	椎名 隆 橋 洋一 岡本 嘉明
研究の名称	ウルシノキ植物による漆塗料の生産から塗料の固化までを俯瞰する 理工学的視点からの教育研究		
研究のキーワード（注1）	漆 塗料 バイオ 講習		
研究の概要 （注2）	バイオ系研究者、高分子化学研究者、漆掻き職人の叡智を結集して、 京都の漆器文化を支えた漆塗料の固化メカニズムと良質なウルシノ キが良質たる理由を最先端バイオ技術を用いて探るとともに、学生た ちに漆の面白さ、ユニークさを伝える。		
研究の背景	京都府福知山市夜久野町は京都の誇る漆樹液の生産地で、京都市では 老舗の塗料メーカーが漆塗料を生産し、漆器メーカーが高度に洗練さ れた漆器を古くより作ってきた。本研究においては、研究組織を構成 する研究室の大学院生・学部生と共に、京都工芸繊維大学および京都 府立大学ならではの理工学的視点から京都が育んだ漆の独自さ面白 さを体感しその分子基盤を研究するとともに、未来の新技术への展開 の方策を提案する。		
研究手法	1. 福知山市夜久野町にて漆掻き体験と実験用サンプルの採種。 2. 遺伝子発現解析。 3. 漆器作り体験。 4. 漆塗料の重合メカニズムのバイオ研究。		
研究の進捗状 況と成果	1) 福知山市夜久野町にて、NPO法人丹波漆の協力の下、漆掻き体験 およびサンプル採種を実施。（2018年夏） 2) ウルシノキのRNA解析。 3) 漆塗り講習を実施した。（2018年秋） 4) ウルシノキ樹液のタンパク質分析		
地域への研究 成果の還元状 況	参加メンバーの学生たちが夜久野町と漆の魅力を知る助けになった と思う。		

研究成果が4 大学連携にも たらず意義	研究組織の構成メンバーはすでに5年以上に渡り漆文化の保全活動、 学術研究を共同して実施してきた。連携研究支援による共同研究、イ ベントの共同開催とその成果はこの協力体制を維持、強化する上で大 いに助けになる。そしてこの協力体制は当該教育研究の発展に不可欠 である。
研究発表 (注3)	学術的研究成果を1ないし2年以内に英語原著論文にて公表予定

注1 「研究のキーワード」欄には、ホームページ閲覧者が、研究内容のイメージをつかめるように、キーワードとなる用語を3個から5個程度、記述すること。

注2 「研究の概要」欄には、ホームページ閲覧者の理解の助けとなるように、写真、表、グラフ、図などを用いて、作成すること。

注3 「研究発表」欄には、論文、学会発表、ニュース・リリース等について記述すること。

注4 研究成果が「知的財産」の発明に該当する場合は、ホームページでの公表により、新規性の喪失となるため注意すること。

注5 本書は、A4サイズ3ページ以内とすること。